

報告事項 イ

件名	学校におけるメンタルヘルスリテラシーの向上に向けた東京大学大学院との連携協定に基づく取組について
提出理由	学校におけるメンタルヘルスリテラシーの向上に向けた東京大学大学院との連携協定に基づく取組について、別紙のとおり報告します。
概要	<ol style="list-style-type: none">1 現状と課題2 連携協定の締結3 連携協定に基づく主な取組<ol style="list-style-type: none">(1) 教職員向け研修動画の配信(2) 研修後の意識の変化(3) メンタルヘルス研究推進校の指定 <p>ア 生徒向けメンタルヘルスリテラシー授業</p> <p>イ 今後の取組</p> <ol style="list-style-type: none">(ア) 心の不調や自殺リスクを把握するツールの活用(イ) 教職員研修の充実(ウ) 保護者との連携

(生徒指導課・保健体育課)

学校におけるメンタルヘルス リテラシーの向上に向けて ～東京大学大学院との連携協定の取組～

令和3年10月

生徒指導課・保健体育課

現状と課題

現状

- 暴力行為、いじめ、不登校、自殺が疑われる事案の増加（次ページ参照）
- コロナ禍により、児童生徒に普段以上の負担がかかっている

課題

- 児童生徒の援助希求能力（助けを求める力）の向上
- 児童生徒のメンタルヘルスに関する教職員の理解
- 校内の組織的な教育相談体制と家庭や外部専門機関等との連携



**子供たちの悩みや不安、心の不調を早期発見、早期対応し、
困難を抱える児童生徒を支援する体制を強化することが必要。**

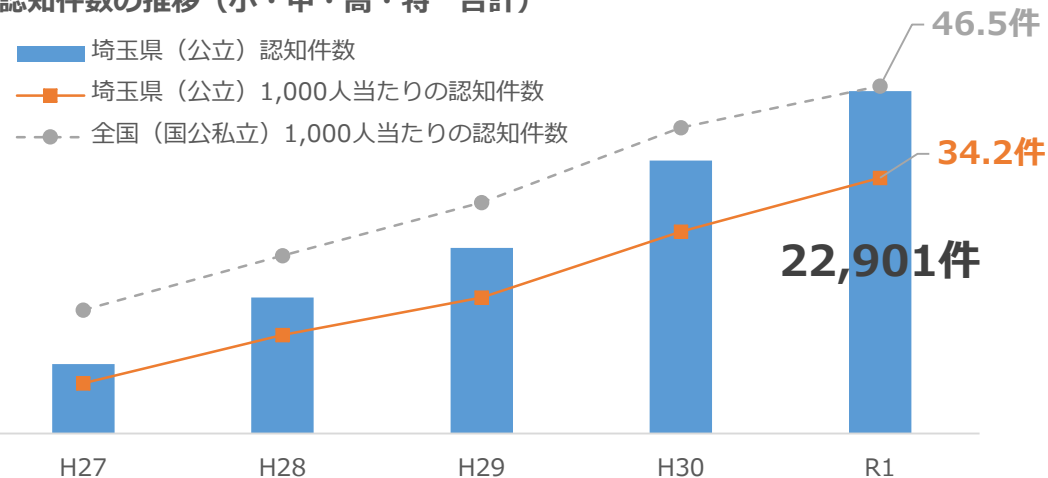
生徒指導上の諸課題の増加

児童生徒数
(R1年度調査対象)

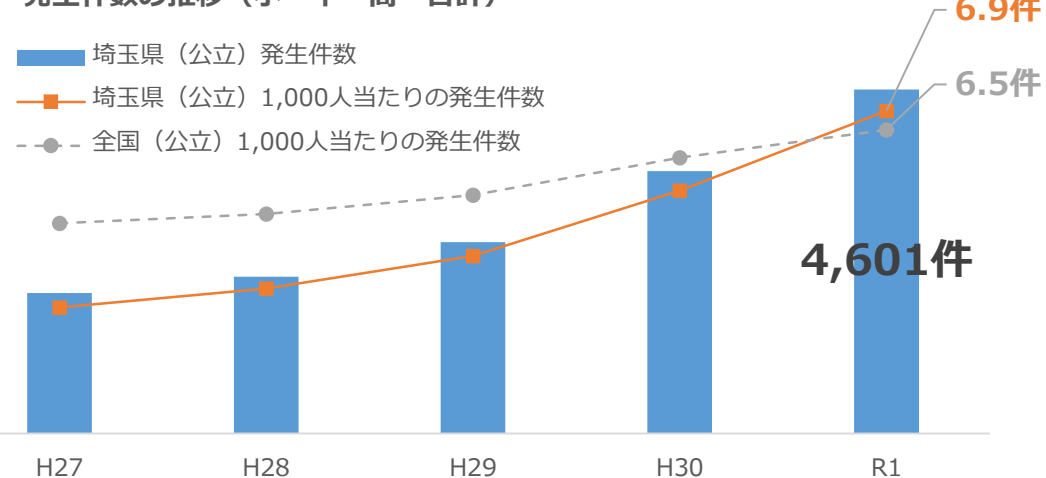
小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	計
366,638人	176,489人	119,538人	7,716人	670,381人

※義務教育学校1～6学年は小学校、7～9学年は中学校に含む
※中等教育学校前期課程は中学校に含む

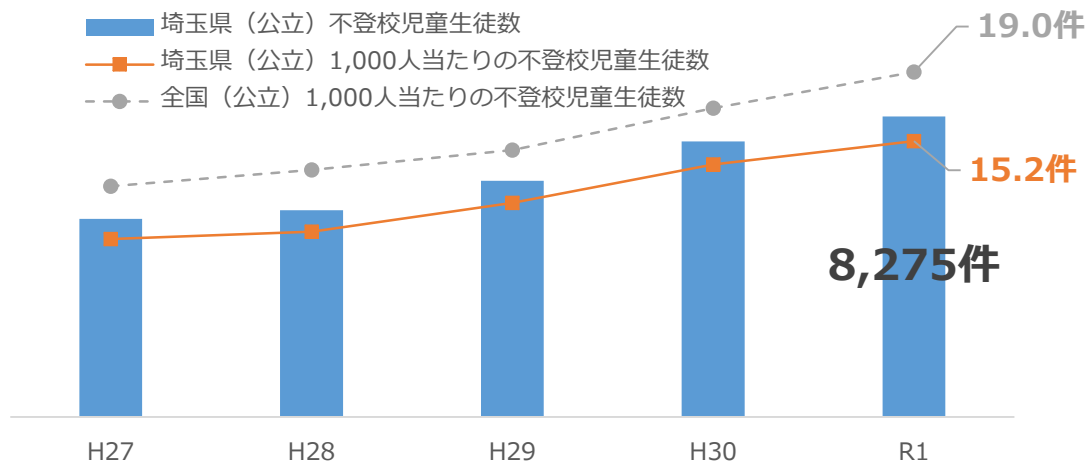
いじめ 認知件数の推移 (小・中・高・特 合計)



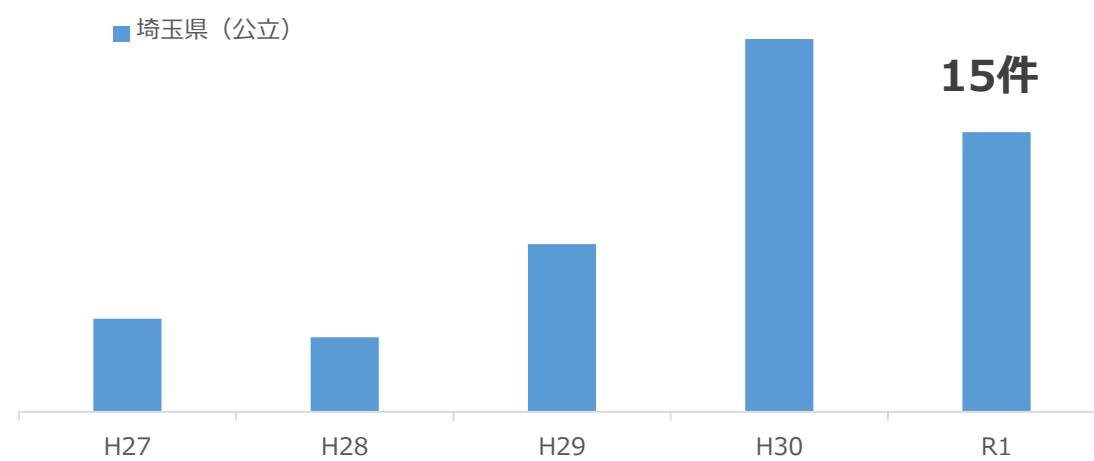
暴力行為 発生件数の推移 (小・中・高 合計)



小中学校における不登校児童生徒数の推移 (小・中 合計)



自殺が疑われる事案の件数 (小・中・高 合計)



連携協定の締結

- 令和2年11月「学校におけるメンタルヘルスリテラシーの向上に向けた教育の充実に関する連携協定」を締結した。

【連携協定の主な取組】

- ・教職員向け
研修動画の配信
- ・教職員向け
実態調査の実施
- ・メンタルヘルス
研究推進校での取組



東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO

東京大学大学院
教育学研究科
健康教育学研究室



埼玉県のマスコット「コバトン」「さいたまっち」

× 埼玉県教育委員会

【学校におけるメンタルヘルスリテラシーの向上】

心の不調が急増する思春期の児童生徒と周囲の大人が、正しい知識を獲得し、心の不調に早期に気付く力やSOSを出せる力を身に付けること、そのSOSを適切に受け止めること、SOSを出せない児童生徒へのアプローチ、組織的な対応へとつなげていくための体制整備などを意味する。



高田 直芳 教育長

佐々木 司 教授

教職員向け研修動画の配信

- 児童生徒のメンタルヘルスや自殺予防に関する知識向上と実態把握を目的に教職員向け研修動画を作成。
- 校内での役割に応じた内容を段階的に配信し、各学校は校内研修等で活用した。

【教職員向け研修動画の配信】

対象学校：県内公立学校（小中高特・さいたま市除く）
配信時期：管理職向け 令和2年12月
養護教諭向け 令和3年1月
教諭等向け 令和3年5月

精神疾患の頻度はどれくらい？

日本人で一生のうちに
何らかの精神疾患にかかる人は、
5?10?20?40?人
に1人の割合
(認知症は含まない)

(Kessler 2007)

教諭等向け動画より抜粋 講師：佐々木 司 氏

研修後の意識の変化 (思春期のメンタルヘルスに関するアンケート)

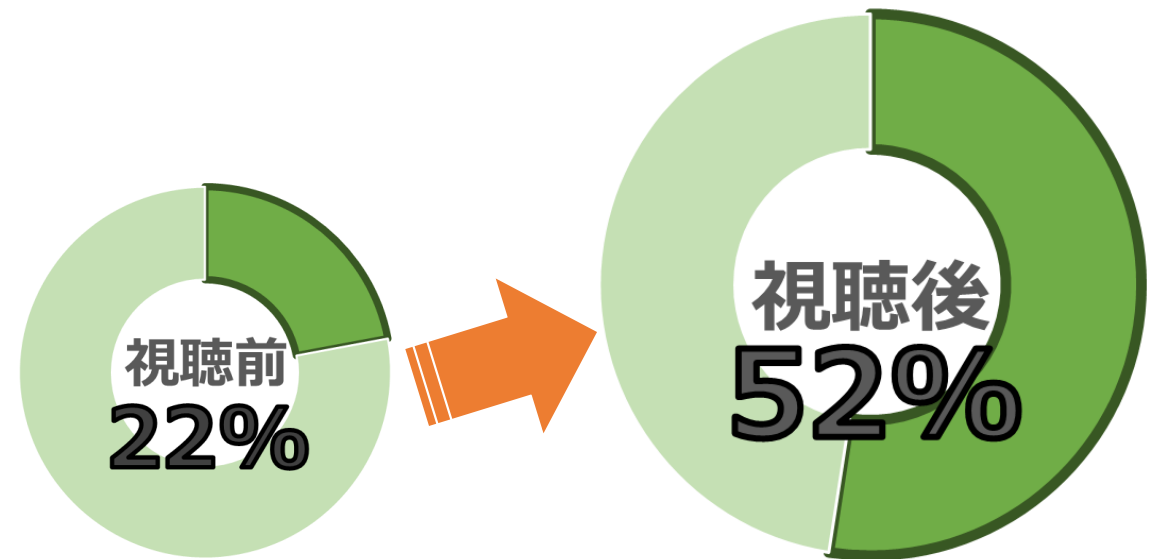
- 研修動画視聴前後に、教職員へのアンケートを行ったところ、子供たちのメンタルヘルスに関する意識に変化が見られた。
- 結果を基に、東京大学大学院と連携して、メンタルヘルス研究推進校での研究内容等に反映させていく。

【思春期のメンタルヘルスに関するアンケート】

対象学校：県内公立学校49校（小中高特・さいたま市除く）
対象教員：管理職・養護教諭を除く教職員
実施時期：令和3年6～7月
備考：研修動画の視聴前後に2回実施

あなたは「心の病気／病気への対処」について児童生徒に教える自信がどれくらいありますか。

「ある」「少しある」と答えた割合



メンタルヘルス研究推進校の指定

- 中学校 8 校・高等学校 5 校を、メンタルヘルス研究推進校（以下研究推進校）に指定した。

	地域	学校名
1	南部	川口市立芝東中学校
2	南部	草加市立花栗中学校
3	西部	川越市立名細中学校
4	西部	鶴ヶ島市立藤中学校
5	北部	熊谷市立富士見中学校
6	北部	本庄市立児玉中学校
7	東部	越谷市立大相模中学校
8	東部	三郷市立早稲田中学校

	課程	学校名
1	全日制	埼玉県立草加南高等学校
2	全日制	埼玉県立鷺宮高等学校
3	全日制	埼玉県立草加東高等学校
4	全日制	埼玉県立蕨高等学校
5	全日制	埼玉県立上尾高等学校

指定期間：令和3年度～令和5年度

研究推進校での取組

生徒向けメンタルヘルスリテラシー授業（SOSの出し方に関する教育）

- 東京大学大学院で作成したDVD教材等を使用し、研究推進校の年間計画に組み込み3年間実施する。
- 生徒はロールプレイング等を通して「心の不調・病気は誰にでも起こること」「一人で抱え込まずに相談することが大事なこと」などを学ぶ。
- 東京大学大学院において授業の効果検証を行い、全県の学校でも授業を実施できるよう工夫・改善を図る。

【生徒の意識の変化】

「勇気を出して相談してみようと思った」
（ロールプレイングを行って）「このまま、この人に全て話してしまおうと思った」



研究推進校での今後の取組

心の不調や自殺リスクを把握するツールの活用

- 見落としがちなリスクを把握し、必要な対応を早期に開始することを目的に活用していく。

教職員研修の充実

- 子供たちからのSOSをより適切に受け止められるよう、学校現場で行える研修を充実していく。

保護者との連携

- 思春期の心の不調は珍しいことではないことや、些細なことでも学校と家庭で連携していくことなどについて、動画等を用いて共通理解を図り連携していく。

研究推進校での取組の全体イメージ

R 3 年度

R 4 年度

R 5 年度

R 6 年度

汎用性のある取組を全県へ発信
安心・安全な学校へ

全ての学校で児童生徒を
支援する体制を強化

STEP 3 外部専門機関との支援体制の充実

STEP 2 校内教育相談・健康相談体制の充実

STEP 1 児童生徒や周囲の大人のメンタルヘルスリテラシー向上

○ **教職員**のメンタルヘルスリテラシー向上

令和3年度
重点実施

○ **児童生徒**のメンタルヘルスリテラシー向上

令和3年度
重点実施

○ **保護者**と連携した取組

支援

支援

支援

県教育委員会・東京大学大学院の支援